

個人情報保護行政は後退するのではないが 個人情報保護法施行条例、第7次総合計画で総括質疑

12月定例議会が始まりました。今議会では新型コロナ対策などが盛り込まれた一般会計補正予算や第7次総合計画基本構想及び基本計画などが審議されます。

私は初日に総括質疑に立ち、個人情報保護法施行条例などで質疑を行いました。以下は30日に行った総括質疑の主なやりとりです。

※12日の午後、雪対策や吉川区町田の古墳群について一般質問します。

【橋爪】個人情報保護に関する法律の一部改正に伴い、これまでの条例を廃止し、新たに同法の施行に関し必要な事項を定めるとしているが、当市のこれまでの条例と何がどう変わるか。

【中川市長】対象となる個人情報生存する個人の情報に限定される。収集の制限は、直接法律が適用されるため、条例には規定されない。新たな取組として、データ流通に関し、匿名加工情報の概念が導入される。国の統一的な基準とこれまでに積み重ねてきた知見を基に、引き続き個人情報の適正な取扱いに努める。

【橋爪】当市の条例では、市民の基本的な人権である個人の尊厳を確保することを目的としている。今度の法にはこれがない。今までの条例では、情報の収集については直接個人から収集することが原則だったがそれもなくなる。個人情報について民間に委託する場合もこれまでのような制限がなくなった。これでは個人情報保護の後退になるのではないか。

【笹川総務管理部長】国は、今までのレベル差も解消して適切に保護していく考えだ。

【橋爪】市長は今回の総合計画では地域計画は策定しないとしてきたが、その点について市民の反応はどうであったか。

【市長】地域計画に関する質問や策定を求めご意見は、特段なかった。

【橋爪】総合計画の説明会ではなかったとしても、地域独自予算（をめぐるとして）では出たはずだ。これは地域独自予算だけの話ではない。総合計画の中でどうしたらいいかと考えるべき問題だったのではないか。

【橋爪】基本計画の中の「成果指標」については、パブリックコメントなどでいくつも注文が出たが、数値の設定に当たり、共通ルールのようなものはあったのか。

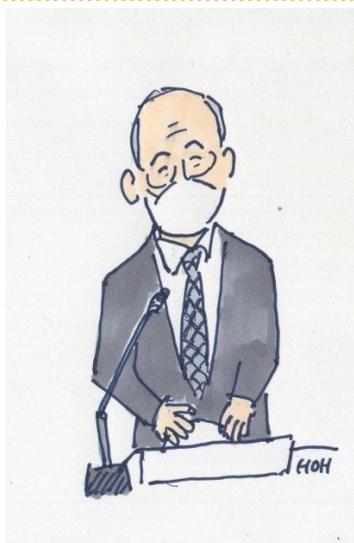
【市長】素案の段階においては、社会経済の動向に左右される指標の多くが、コロナ禍の影響により低調に推移する中

あって、先行きの不透明感もあり、全体的に慎重な判断の下で数値が設定されて

いた傾向にあった。これに対し、計画の特徴を踏まえた目標設定とするよう、総合計画審議会などで指摘があり、より適切な成果指標となるよう、改めて全庁的に見直しを重ねた上で、最終案としての取りまとめを行った。

【橋爪】総合計画の進捗管理、評価検証をどのような体制で取り組むか。

【市長】私や副市長の統率の下、企画政策部を中心として部局横断的に取り組む。



【ツリガネニンジン】キキョウ科の多年草。漢字で「釣鐘人参」と書きます。春は「ノノバ」という山菜の名前で知られています。花は夏、毎年7～8月に薄紫色で釣鐘型のかわいい花を咲かせます。花言葉は「詩的な愛」「優しい愛情」「遠慮」などです。先週、大湊区でこの花を見つけ、びっくりしました。草刈りの後、再び茎を伸ばし、咲いたようです。

小川未明童話をもとにした市民音楽劇、「月の明るい夜に」の公演が27日、文化会館でありました。今回は「月夜と眼鏡」「月夜とあざらし」など「月」が出てくる未明の童話4編をもとにした市民参加の劇でした。劇も歌も踊りも素晴らしく、終了後、大きな拍手が続きました。



はしづめ法一の 活動レポート

No.2088 2022.12.4
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hosei.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七三五回 赤とんぼ(3)

地球温暖化の影響なのでしょうが、十一月も終わろうとしているのに、十月上旬のような暖かい日が続いています。

先週の月曜日、大潟区にある県立大潟水と森公園へ行ったときもポカポカ陽気でした。西口駐車場に車を止め、歴史ゾーンの丸山古墳に向かって歩いてみると、すぐに体が温まり、上着もいらなくなりました。

歩き始めて数分後、花びらがきれいに並んでいるノコンギクが目に入りました。ノコンギクについては今秋、あまりいい写真が撮れていなかったため、「これはいい写真になる」とカメラを向け、何枚か撮りました。

そして、何とはなしにノコンギクの周辺を見渡したところ、驚きましたね、ツリガネニンジンが花を咲かせているじゃありませんか。紫色の釣鐘状の花、葉の形からして間違いなくツリガネニンジンです。

本来なら夏に咲く花がもう数日で雪が降るかも知れないというこの時期にどうして咲いたのでしょか。気になって公園事務所に電話を入れたところ、花が咲いているところは草刈りをした場所なので、草刈り後にツリガネニンジンの茎が再び伸びて花を咲かせたようだとのことでした。それにして、よく咲いたものだと思います。

この公園ではもう一つ、うれしいことがあります。赤とんぼがいたのです。丸山古墳からの帰り道でした。歩道脇にある防護柵に一匹だけいました。カメラを持って近づくとサッと飛び立つのですが、すぐに同じ場所に戻ります。とても人懐こい赤とんぼだと思いました。逃げて遠くへ行くことがなかったもので、この赤とんぼも撮ることができました。

赤とんぼと出合っただけじゃなかったのは、赤とんぼの季節はまだ完全には終わっていないと感じたからです。でも、それだけじゃないのです。今年は赤とんぼにたい

する特別の想いを持った年でした。

ひとつは母が他界した十月八日の朝、わが家の玄関前のわずかな水たまりを利用して連結した赤とんぼが産卵する姿を目にしたことです。これは、十四年前、父の遺体を病院から自宅に運んでもらった時、庭のミニコブシの花が満開だったことと同じように私の脳裏に焼きつけられました。

もう一つは楽しい話題です。毎年、九月になると、赤とんぼが人間の体にもとまるようになりま。今年は大島出身で、現在は高田の仲町在住のSさんとともに、インターネット上で「赤とんぼ、この体にとまれ選手権」というのを始めました。

この選手権は、自分の体にとまった赤とんぼの数を競う単純な遊びですが、私の体には赤とんぼが十四とまったあたりから競争は激化しました。Sさんが三脚を使い、動画撮影をする中で一挙に二五匹を記録しました。負けてなるものかと、私も同じ方法で記録に挑戦しました。数日後、今度は私が三〇匹を記録、今年度は終わりを迎えました。来年はギネスを目指します。

こういことがありましたから、赤とんぼは忘れられない生き物となりました。

赤とんぼは、大潟水と森公園に行った日の翌日も見ることができました。南からの暖かい風が吹いていて、木の葉がさらさらと地上に落ちてくる日でした。

赤とんぼを見つけたのは、私の地元の池の周辺です。赤とんぼたちは風に乗り、ゆったりと空を飛び回り、木の枝や草の先端などにとまっていました。時々、私がいる遊歩道のそばまで下りてきました。

この日は、私がカメラを持って五〇メートルほどの距離まで近づいても赤とんぼは逃げることがありませんでした。今年、これだけ仲良しになったのですから、赤とんぼは一日でも長く生きてほしいものです。雪はもうすぐやってくる。

つな脱がマルシェと講演会開催



岸田自公政権は原発推進に向けて大きく舵を切ろうとしています。つなげよう脱原発の輪上越の会」は27日、市民プラザにてマルシェと講演会に取り組みました。コメや野菜、原発に関連する書籍、整体、似顔絵などたくさんのお店が出ていました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月23日(水)	11月30日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.043	0.040
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.057	0.063
高士分遣所	0.047	0.053

吉川区生涯学習フェスティバル賑わう

吉川区生涯学習フェスティバルが26日、27日と吉川コミプラで開催され、大勢の人が訪れました。

芸能発表会では、「コーラスゆりかご」の皆さんの歌のところから「パネルシアターゆめ風船」まで楽しませていただきました。皆さん、頑張っていました。

